



四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより 第33号
令和6年11月11日(月)
平和への誓い(川越町戦没者追悼式
での3年生平井さんの朗読から)

学校教育目標『豊かな心』を土台とした「確かに生きる」力の育成のもと

- ・自分を大切にすること
 - ・他者を大切にすること
 - ・粘り強くやり切る
 - ・人を大切にすること
 - ・安全で安心できる
 - ・地域や保護者とともにある
- 生徒 学校 づくりを目指します

11月9日(土)『令和6年度川越町戦没者追悼式』があいあいホールで開催されました。川越中学校を代表して3年2組の平井心唯(ひらいみゆ)さんが、『人権学習・平和学習で学んだことを「人権作文」として発表、朗読』してくれました。

今年の5月22日(水)3年生修学旅行2日目。3年生は「平和学習」の一環として東京都江東区にある『第五福竜丸展示館』に行きました。展示館の見学、そして学芸員さんのお話、そして平和セレモニー・・・このような取り組みから平井さんが学んだこと、考えたこと、そして学年みんなで取り組んだ平和学習と人権学習のまとめとして作文に想いを込めて表現をしてくれました。

昨日、16時から戦没者追悼式の作文朗読のリハーサルが行われた日、「第五福竜丸」の元船長の筒井さんが亡くなられたニュースが入りました。乗組員の生存者は1人だけになってしまいました。平井さんの作文朗読には第五福竜丸の乗組員についての内容も記されていました。第五福竜丸の生存者は1名のみとなってしまいました。だからこそ私たちが第五福竜丸のことを発信しなければ・・・。



【一番左と真ん中は当日の写真。一番右の写真は金曜日のリハーサルの様子から】

歴史を語る第五福竜丸と平和への願い

川越中学校3年 平井 心唯

私は、今までたくさんの平和学習、人権学習を学校を通して学びました。その中の一つが、第五福竜丸の事です。第五福竜丸は、1953年3月1日、マーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカがおこなった水爆実験により被ばくした静岡県焼津港所属の遠洋マグロ延縄漁船です。第五福竜丸の乗組員は水爆実験による「死の灰」を浴び、たくさんの人が後遺症で苦しむようになりました。そして、修学旅行では、第五福竜丸展示館に行き、第五福竜丸を目の前で見ることができました。実物はとても大きくて、迫力がありました。すべて木で作られており、本当に海に浮かんでいたと思えませんでした。

第五福竜丸の乗組員の人々は、過ごすはずであった日常や友人、家族との時間が一瞬の出来事によって、それまで当たり前のように来ていた明日が来ないのではないかという不安にかわり、「死の灰」による後遺症と一生懸命戦ったことだと思います。私たちが想像するよりもおそろしい状況であり、歴史を学んだだけの私たちがその痛みのすべてを分かろうとすることは無理だと思います。それでも第五福竜丸におこった出来事を知ろうとしなければ何もはじまらないし、知ってほしいという思いで発信している人もいます。知ろうとすることで痛みやつらさは分からなくても救われる人はいると思います。

現在、被ばくした第五福竜丸の乗組員の生存者は二人となっています。水爆や「死の灰」のおそろしさを実際に体験し、その恐怖を語る人が二人です。自分には、関係ないではなくいつながおこってもおかしくないのも、もし自分にそういうことがおこったらという自分事として考え、この先は、私たちが第五福竜丸のことを発信していく必要があると思います。

誰もが願う平和は世界中を見ていくと、中々実現していないと思います。今もどこかであそいがおき、戦争になっています。戦争は、すれ違いや民族の違い、方向性の違いなど様々な理由でおきてしまっ

す。日本は今は、平和主義ですが、かつては、戦争がおき、たくさんの人が犠牲になりました。戦争を経験した多くの人が「もう二度と経験したくない」と語ります。戦争を経験していない私も経験したくないと思います。でも、それでもどこかで争いはおきてしまいます。やっぱり、願っていたり、思っているだけでは中々何も変わらない世界です。でも、急にになにか行動をおこすとなってもとても難しいことだと思います。なので、行動をおこす第一歩として、過去に起こった事実や今、世界の中で起きている事実を知ることです。そこではなにがあったのか、どういう状況だったのか、ということを知ること。知ろうとしなければ何もわからないし、他人事としてではなく、自分事として捉えることとなります。

戦争や第五福竜丸におきた悲惨な事実をもう二度とくりかえさないことを願っていますし、学校で学び、修学旅行で第五福竜丸を見学し、第五福竜丸が三重県に関係あることを知ることができたので、このことをずっと忘れないでいたいし、ここだけのものにせず、これからもたくさんのことを知っていけたらと思います。この先もう二度と水爆や戦争のことで苦しんだり、悲しんだりすることがなく、誰もが安心して暮らしていけるような世界になることを私は願っています。このように平和学習や人権学習を3年間学ぶことができたのも3年生の先生方のおかげだと思います。今日の私の作文を聴いていただきありがとうございます。

【 『 平和学習 』 修学旅行での3年生が第五福竜丸展示館見学で取り組んだこと 】

平和へのメッセージを川越中学校3年生が心を込めて届けます。『第五福竜丸展示館』川越中学校3年生修学旅行実行委員会企画の平和セレモニー。そして、展示館見学の平和学習平和セレモニー第五福竜丸展示館見学。学芸員さんの平和へのメッセージを心で受け止めた子どもたちは、みんながしっかりと目的をもって見学ができました。大変貴重な時間となりました。学芸員さんありがとうございました。3年生修学旅行実行委員会のみなさん本当にありがとうございます！素敵なお平和セレモニーでした。〔5月22日 3年生修学旅行2日目の川越中学校ホームページより抜粋〕

【 第五福竜丸展示館（だいがふくりゆうまる てんじかん）とは・・・ 】

昭和29年(1954年)に太平洋のマーシャル諸島にあるビキニ環礁でアメリカが行った水爆実験によって被害を受けたのが第五福竜丸です。第五福竜丸は昭和22年(1947年)に和歌山県で建造された木造のマグロ漁船です。アメリカの水爆実験での被爆後は、練習船に改造されて東京水産大学で使われていましたが、昭和42年(1967年)に廃船になったものです。東京都が第五福竜丸の実物によって知っていただくことと、原爆、水爆による悲惨な事実がふたたび起こらないようにという平和への願いを込めて、東京都江東区に都立展示館とした。



【 修学旅行2日目。5月22日の川越中ホームページから 】 平和へのメッセージ！快晴の中、平和セレモニーを実施！

今日の学習のメインである平和学習。東京都江東区にある第五福竜丸展示館。三重県とかなり深いつながる歴史のある第五福竜丸。第五福竜丸の木造船の材料は三重県熊野市の杉を使い、最後に実習船として暴風にて沈没した場所も三重県。そのエンジンを海底から引き上げたのも三重県。そんな三重県とゆかりのある第五福竜丸展示館には三重県の中学校が数多く見学し、修学旅行での平和学習に積極的に取り組んでいます。



川越中学校では、学校から事前学習にしっかりと取り組んで来ました。今日の平和セレモニーでは、展示館館長さんを前に恒久の平和を願い、実行委員会企画のセレモニーにて、平和メッセージを記した短冊の贈呈式と合唱曲『春風の中で』を心を込めてチカラいっぱい曲に気持ちを込めて届けました。五月晴れの最高の心地よい日和の中、心あたたまる3年生の平和学習が行われました。学芸員さんからの展示館について、第五福竜丸の歴史について学ぶための講和をしていただきました。子どもたちからは、見学時間がもう少しほしかったと言う声が出るなど、学芸員さんのお話は子どもたちの心に響く平和への確固たる平和へのメッセージとなりました。本当にありがとうございました。

『 戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に、平和のとりでを築かなければならない 』（ユネスコ憲章より）平和について考える・・・戦争によって犠牲になるのは、いつも何の罪もない老人、女性、そしてみなさんと同年代のこれからの人生に一辈の夢を見ている子どもたちです。当たり前に来る明日を一生懸命に生きたかった子どもたちです。戦争が大切な子どもたちの日常の幸せを奪ってしまっています。

